

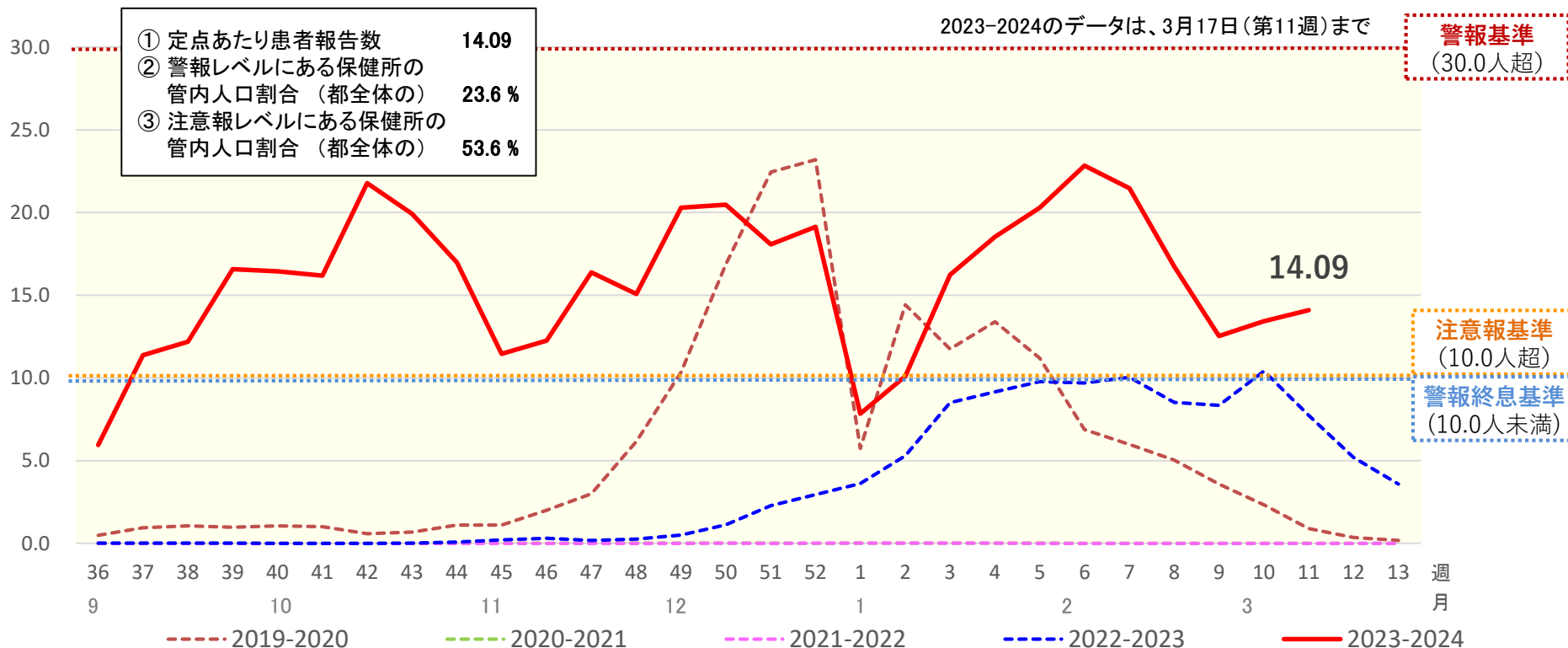
インフルエンザの感染状況

資料5

都内における週別定点あたりの患者報告数

(注意報レベル開始基準値 10.0人)
(警報レベル開始基準値 30.0人)

注意報レベル(2023-37週~)



※ 注意報レベルの継続

2024年第11週では定点あたりの報告数が14.09で、注意報レベル基準値の10.0を超過していることに加え、警報レベルにある保健所の数は6保健所、管内人口割合は23.6%で基準の30.0%には達していないことから、**注意報レベルを継続**する。

➤ **場面に応じたマスクの着用、手洗いや換気など、基本的な感染防止対策の心がけを！**

麻疹（はしか） - 5類感染症 -

麻疹の症状等

参照：東京都感染症情報センターホームページ・国立感染症研究所ホームページ
厚生労働省事務連絡（R6.2.26）

症状

- ・ 10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状（咳、鼻水、目の充血等）が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発しんが出現
- ・ 主な症状は、発熱・発しんの他、咳、鼻水、目の充血など
- ・ 通常は7～10日で回復するが、肺炎、脳炎等の重い合併症を発症する場合あり

感染経路

- ・ 空気感染、飛沫感染、接触感染（ヒトからヒトへ感染が伝播）
 - ・ 感染力は極めて強く、免疫を持たない人はほぼ100%感染
 - ・ 感染した人の90%以上が発症
- ※ 感染力が最も強いのは発しん出現前の期間

海外等の流行状況

- ・ ヨーロッパ地域での症例報告数は前年度の30倍以上に急増し、入院を要する重症例や死亡例も確認
- ・ 訪日外客数が多い東南アジア地域も、世界的に麻疹の症例報告数が多い地域のひとつ
- ・ 海外からの輸入症例が契機と考えられる事例の報告もあり、今後、輸入症例や国内における感染伝播事例の増加が懸念

麻しん（はしか） - 都内及び国内での患者の発生状況等 -

国内で麻しん患者が複数発生

- 2024年2月24日にUAEから関西国際空港に到着したエティハド航空830便に搭乗した乗客の感染を確認（3月1日大阪府発表）
- 上記の関連と推定される陽性者数：10人（3月13日大阪府発表）

都内における患者の発生状況

- 2024年3月1日に大阪府が公表した麻しん患者と同じ航空機に搭乗した都内滞在者の感染を確認（3月11日発表）
- 海外渡航歴^(南アジア)のある5歳未満の都内在住者が感染（3月12日発表）
- 2024年2月以降、都内では5人の感染を確認（3月22日発表）

- 麻しんを疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ連絡し、麻しんの疑いがあることを伝えてください。
- 受診の際は公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

麻疹（はしか） - 予防策・ワクチンの接種 -

麻疹は予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防策です！

・ワクチンの2回接種で約99%の人が抗体を保有し、免疫を持続させることができる

麻疹（はしか）・風しんワクチン

合計2回の
ワクチン接種を
忘れずに受けましょう

1歳になったら
まず1回

小学校入学前に
もう1回

1回目は1歳になってから2歳になるまで
2回目は小学校入学前の1年間で
それぞれ接種をお願いします。

なぜ、予防接種が必要なの…？

麻疹（はしか）及び風しんを予防するためには、予防接種が最も有効な方法だからです。
例えば、麻疹は感染力が強く空気感染しますので、手洗い・マスクのみでは予防できません。
1回の予防接種では免疫がつかない人などもあるため、2回の接種が大切です。

各地で麻疹が発生しています。予防接種はお早めに！

麻疹（はしか）
11歳

風しん
12歳

お子さまの健康が気になることからこそ、予防接種は計画的に受けましょう。
麻疹（はしか）・風しんの接種については、裏面記載の窓口にお尋ねください。

東京都保健医療局 東京都医師会

定期予防接種の対象者

- 第1期 1歳以上2歳未満
- 第2期 5歳以上7歳未満で小学校入学前1年間（いわゆる幼稚園・保育園の年長児）

- ・ いずれも、MRワクチンを1回接種
- ・ 接種券は区市町村から送付されます

お住いの区市町村に
お問い合わせください

都独自の取組

- 麻疹ワクチン接種に係る補助制度

定期接種を受けられなかった人に対して、区市町村包括補助を活用し、**通常より安い費用で予防接種が受けられる制度**を設定

【リンク先】

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/measles-rubella/mashinfuusin_information.html



接種歴をご確認のうえ、抗体検査・ワクチン接種のご検討をお願いします

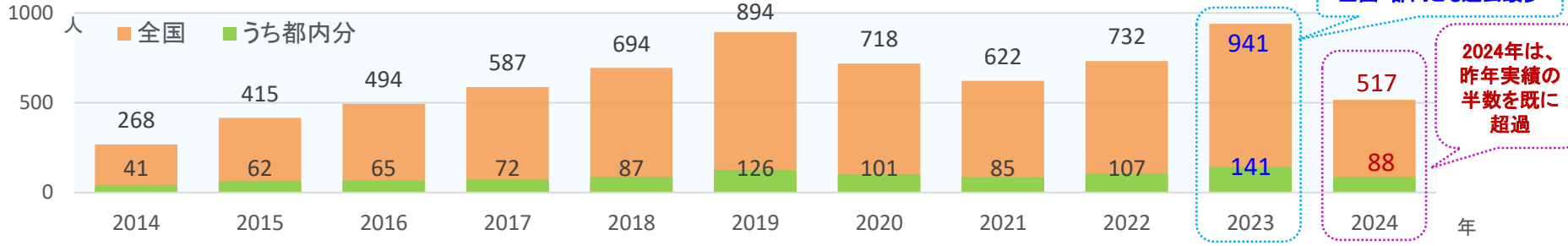
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) - 5類感染症 -

参照: 国立感染症研究所ホームページ、東京都感染症情報センターホームページ

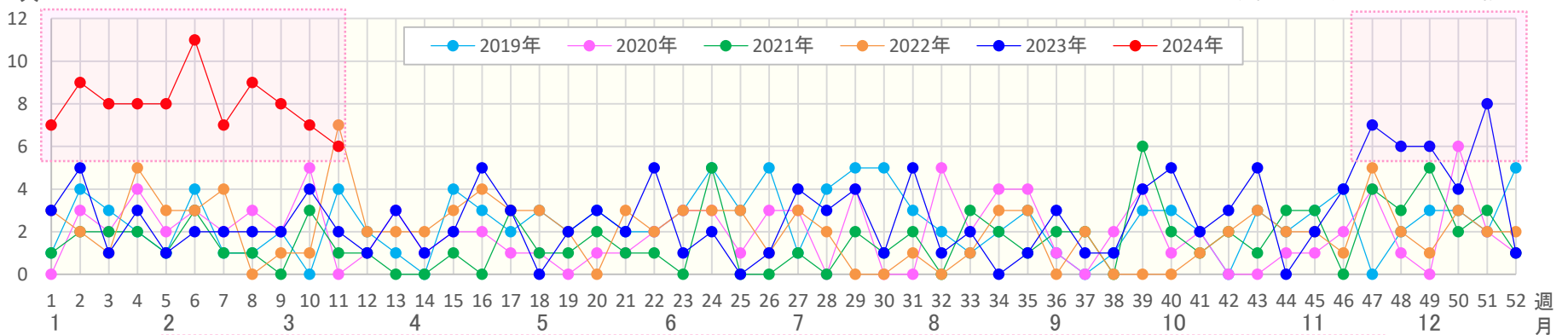
劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは

- 病原菌は、A群溶血性レンサ球菌の他、B群、C群、G群の溶血性レンサ球菌等
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)は突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行するβ溶血を示すレンサ球菌による敗血症性ショック病態
- 感染者のうち約30%が死亡しており、極めて致死率の高い感染症
- 2023年の患者報告数は、全国941件、うち東京都141件でいずれも過去最高

STSS感染者報告数の推移(過去10年間)



都内におけるSTSS週別感染者報告数の推移(過去5年間)

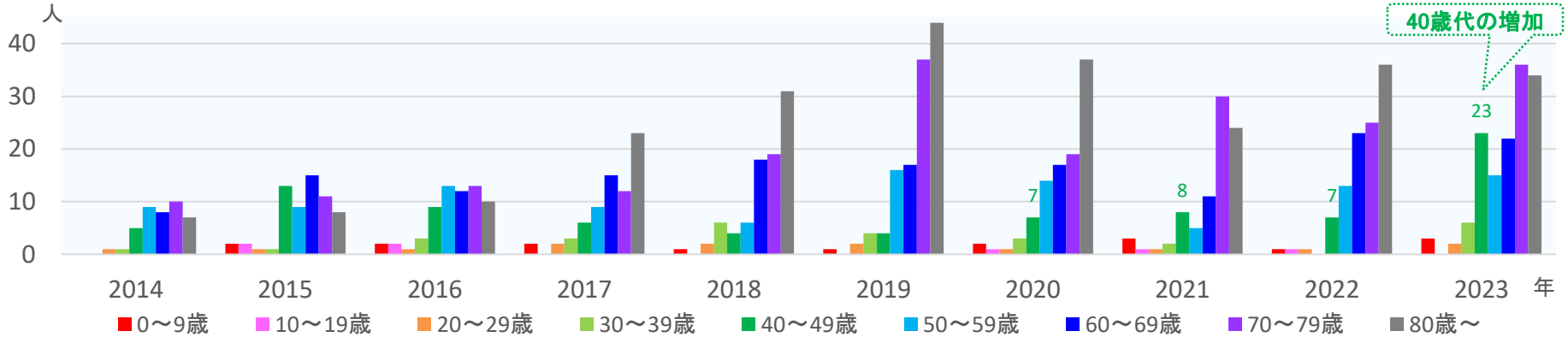


※ 2023年11月中旬以降の週あたり報告人数：6人を超える回数が増加

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) - 5類感染症 -

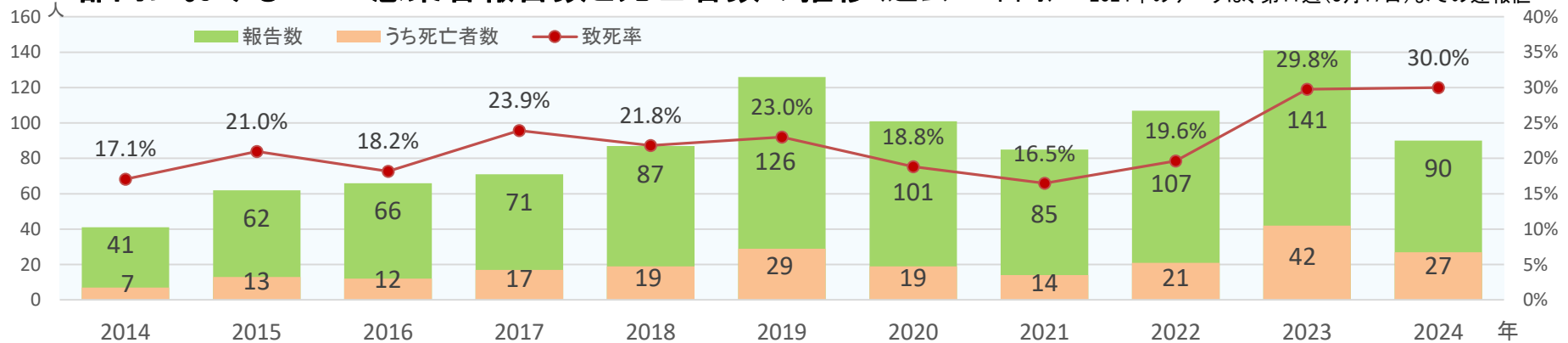
都内におけるSTSS感染者報告数(年代別内訳・過去10年間)

参照: 東京都感染症情報センターホームページ



都内におけるSTSS感染者報告数と死亡者数の推移(過去10年間)

2024年のデータは、第11週(3月17日)までの速報値



都内における感染者の状況

- STSSは、子供から大人まで広範囲の年齢層に発症するが、特に大人に多いのが特徴
- 都内における過去10年間の状況では、どの年においても40歳以上で全体の約90%を占める
- 2023年は以前と比較して、40歳代の感染者の増加が著しい(2022年:7人 ⇒ 2023年:23人)
- 2023年の都内報告数141人のうち、死亡者数は42人(30代1人/40代7人/50代2人/60代6人/70代11人/80代以上15人)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) - 5類感染症 -

「A群溶血性レンサ球菌の分離株(M1_{UK}株)」の解析

参照: 国立感染症研究所ホームページ、厚生労働省事務連絡

- 2023年7月以降、全国的に40歳代以下を中心にA群溶血性レンサ球菌によるSTSSの報告数が増加
また、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたりの報告数増加や、M1_{UK}株の地域集積も確認
- A群溶血性レンサ球菌のうち伝播性が高いとされ、2010年代より英国等で増加している**M1_{UK}株は、STSS等の増加に関与している可能性**
- STSS患者発生時には、菌株の解析等を行うよう国が事務連絡を発出 (R6.1.17)
⇒ **東京都健康安全研究センターにおいても、菌株解析についての対応を実施中**

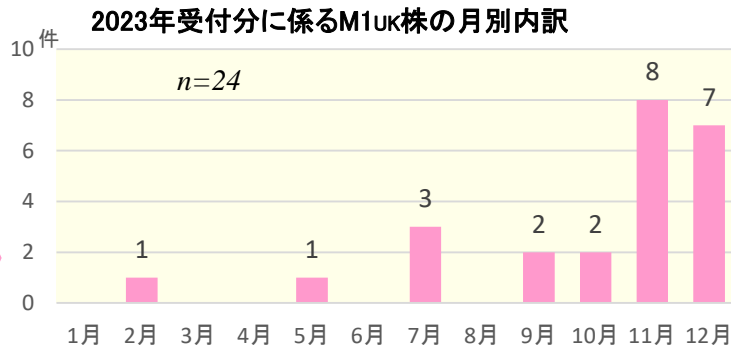


都内医療機関から搬入された劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来株の状況

資料提供: 東京都健康安全研究センター

2023年受付分

| | |
|----------------------|-----|
| 劇症株数 | 133 |
| <i>S. pyogenes</i> | 76 |
| <i>emm</i> 1型 | 26 |
| M1 _{UK} (+) | 24 |
| M1 _{UK} (-) | 2 |



2024年受付分(2月21日現在)

| | |
|----------------------|----|
| 劇症株数 | 23 |
| <i>S. pyogenes</i> | 16 |
| <i>emm</i> 1型 | 12 |
| M1 _{UK} (+) | 12 |
| M1 _{UK} (-) | 0 |

- STSSの患者報告数が増えた2023年11月中旬以降、M1_{UK}株の検出数も増加
- 2024年のM1_{UK}株の検出数は、2か月弱で昨年1年間で検出数の50%(12件)検出
- 都内でも、M1_{UK}株の増加が、STSS報告数の増加につながっている可能性

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS) - 5類感染症 -

都の対応状況等

○ 2月29日 東京iCDC「STSSの今後の対応に関する意見交換会」を開催

【専門家からの主な意見】

- 医療機関からの情報収集方法の検討が必要
⇒ 発生届では分からない情報収集のため、独自の調査項目の選定や医療機関等から個別に情報を収集 ⇒ 東京iCDCの知見を活用し、感染の傾向等进行分析
- 医療関係者への情報提供に工夫が必要
⇒ STSSに係る東京都感染症マニュアルを最新データに改訂し、医療機関に提供

STSSの症状等

参照: 国立感染症研究所ホームページ、東京都感染症情報センターホームページ

- 初期症状は、四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下など
- 発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的
- 発病後数十時間以内には軟部組織壊死、急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群(ARDS)、多臓器不全(MOF)等を引き起こす
- ショック状態から死に至ることも多い
- 主な感染ルートは飛沫・接触によるが、手足等の傷口から感染する場合がある

四肢の疼痛、腫脹、発熱などの感染の兆候が見られる場合

⇒ 速やかに **医療機関を受診** してください